

# 2017年度 一般社団法人聖路加看護学会 定時評議員会議事録

日時：2017年6月9日（金）18：00～19：30

場所：聖路加国際大学 2号館 3階 交流ラウンジ

出席：

評議員：松谷美和子（理事長）、有森直子（理事）、真田弘美（理事）、  
八重ゆかり（理事）、中村めぐみ（理事）、吉川久美子（理事）、奥裕美（理事）、菱沼典子  
（監事）、亀井智子（第22回学術大会長）、

小谷野康子、酒井禎子、野末聖香、平野かよ子、水戸優子、吉田千文

委任状：15通

指名理事：小林京子

議事録作成者：松谷美和子理事長

## 議 題

- 1 理事長挨拶
- 2 出席者数の確認：定款第21条-2
  - 上記の通り、15名の評議員の出席と15通の委任状をもって、本日の評議委員会  
が成立することを確認した。
- 3 議事録署名人の指名：定款第24条-2
  - 吉田千文氏、水戸優子氏を議事録署名人として指名した。
- 4 報告事項
  - 1) 2016年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1  
下記の本学会の事業について、理事長、および担当理事より説明があった。
  - (1) 理事会報告
    - 理事会、書面理事会の開催回数について、別に開催番号を付すのか（例：第1回  
理事会、第1回書面理事会）という質問があった。本学会ではそのようにして開  
催回数を整理している旨、説明があった。
  - (2) 定時評議員会報告
  - (3) 庶務
  - (4) 会計
    - 会費納入率が68%であった。昨年度より下がっており、納入率を上げるためにど  
うしたらよいか検討している旨報告があった。
  - (5) 学会誌編集委員会
    - 投稿システムの改修を行ったこと、COIの報告を義務付けたこと、投稿後できる  
だけ速やかに掲載できるよう活動している旨、報告があった。

(6) ニュースレター委員会

- 紙媒体のニュースレターの送付を廃止したこと、これにより予算の削減につながった旨、報告があった。馬庭理事（ニュースレター委員会担当）に代わり、小林理事より報告された。

(7) 学術交流委員会

- 研究助成事業については、研究助成金が未振込との記載があるが、振込は完了している旨、報告があった。
- 学術交流集会については、2017年度の予定について報告があった。

(8) 高度実践看護開発検討委員会

- 一般社団法人看護系学会等社会保険連合（看保連）理事会については、当学会員である山田雅子氏が看保連副代表として参加していることが報告された。
- 本学会からの診療報酬改定に向けた提案内容については、平成32年度の改定に向けて提案できるよう準備している旨報告があった。宇佐美理事に代わり、松谷理事長より報告された。

2) 2016年度決算および監査・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2-①②

- 中村理事（会計担当）より、決算報告書について説明があった。
- 平成28年度の会計および業務の監査を行い、監査概要とともに、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録および収支計算書は収支状況や財産状態を正しく示していること、および、事業内容は真実であると認められたことが、菱沼監事より報告された。
- 前年度「受取寄付金（11,306,058円）」が多額である理由について質問があり、法人化の際、任意団体であった聖路加看護学会の財産を移行したものである旨、中村理事より説明があった。
- 会費収入が減少していることについて、考えられる理由はなにか質問があり、会費納入率が低いことが原因であること、会員数は600人前後で横ばいの状態であることが中村理事より説明があった。
- 学会の主たる収入が会費収入であり、会費納入率を上げるための方策を取る必要があるという発言があった。会員管理を外部業者に委託している学会では、業者が厳格に会員に案内することによって、納入率を上げているという事例がある。そこで、本学会でも数社から見積もりをとるなど外部委託を検討した。しかし、現状では委託代金が高額であり、支払うことが難しいことが分かったと、中村理事より説明があった。
- 学術集会で発表を行う際に会員になるものが多いが、翌年以降の会費が納入されないことが多い。会員であることのメリットが感じられないことが、継続的な会費納入につながっていない理由であるという意見があった。

3) 2018 年度役員選挙について・・・・・・・・・・資料 3-①②

- 2018 年度に向け、2017 年度中に役員選挙規程に基づいて選挙を行う。現在の評議員の中から理事・監事を選出する。スケジュールについて報告があった。
- 西野理英氏（聖路加国際病院）、佐居由美氏（聖路加国際大学）、玉井奈緒氏（東京大学）の 3 名を選挙管理委員に委嘱した旨報告された。

4) 2017 年度事業計画および予算・・・・・・・・・・資料 4-①②

大幅な削減予算となっていること、会費納入率 85%で立てている予算である旨、吉川理事（会計担当）より報告された。昨年度からの主な変更点は以下の通りである。

- ニュースレターの紙媒体での発行を中止、ウェブのみでの公開として通信運搬費を減額した。また編集作業の委託を止めた。ただし、会員へのサービスを考え、発行回数は年 2 回から 4 回に増加する。ニュースレター委員は、ニュースレター・広報委員として活動する。
- 学会誌の紙媒体での発行を年 2 回から年 1 回に変更し、学会誌編集に関わる印刷製本費と通信運搬費を減額した。ただし、ウェブ上ではこれまで通り年 2 回の発行とし、会員へのサービスを維持する。
- ニュースレター、学会誌に関わる通信運搬費を減額した分、庶務会計分の通信運搬費を増額した。
- 研究助成の対象研究が 1 件であったことから、昨年度の 2 件より減額した。
- 選挙関係費用を 2 万円計上した。

5) 2017 年度名誉会員について（学会への貢献について）

菊地登喜子氏、小松美穂子氏を新たに名誉会員にすることが、報告された。両氏は本学会の理事を 2 期にわたって務められた。また、小松氏は学術大会の大会長も務められた。

5 第 22 回学術大会進捗状況報告（別資料あり）

2017 年度 第 22 回学術大会日程：2017 年 9 月 16 日（土）

亀井大会長より、以下の報告があった。

- テーマは、「超高齢社会を支える People-Centered Nursing Care」とした。この PCC の概念は聖路加看護大学 21 世紀 COE プログラムの取り組みの結果として開発した概念である。PCC の実践、教育の方法、さらに PCC がどのようなアウトカムをもたらすのかを研究している。「超高齢社会」という言葉を使ったが、決して老年看護学の領域を対象としているわけではなく、周囲にいる全ての人々が対象である。PCC を考える上での課題を共有したいと思っている。